

# 日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 88  
平成28年

平成28年度 日本庭園学会 関西大会案内

発行 日本庭園学会(会長 鈴木久男)  
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1  
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科  
ガーデンデザイン研究室内  
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)  
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

## 平成28年度 日本庭園学会 関西大会案内

下記の要領で、平成28年度日本庭園学会関西大会を開催いたします。1日目の11月5日(土)は、現地検討会として午前に旧三井家下鴨別邸の見学を、午後に鹿苑寺(金閣寺)と等持院庭園の見学を行います。旧三井家下鴨別邸(重要文化財)の庭園は10月に初めて公開される近代庭園です。鹿苑寺では、西園寺家の北山殿時代の遺構と思われる滝への導水路が新たに確認されたことから、これを巡って現地で討論します。等持院は平成27年度に新たに京都市指定名勝とされた庭園です。2日目の11月6日は、京都産業大学むすびわざ館(京都市下京区中堂寺命婦町)を会場として、終日研究発表会を行います。

記

### <日程・会場>

日程：平成28年11月5日(土)、6日(日)

会場：京都産業大学むすびわざ館ほか

### <参加費>※2日間

大会参加費：学会員・学生500円、非学会員1,000円

現地検討会参加費：2,000円(見学先の入場料を含む)

懇親会費：4,000円(p.2を参照のこと)

資料代：1,000円

懇親会費：4,000円

### <参加申し込み>

当日、会場あるいは集合場所に直接お越しく下さい。

会場準備の都合上、可能な限りメールあるいはファクシミリで以下の項目をご連絡ください。

なお、懇親会参加は11月3日(木)19時までには必ず下記メール宛申し込んでください。

電話でのお問い合わせには対応できませんのでご了承願います。

①参加者氏名

②当日連絡の取れる連絡先

③参加するプログラム(現地検討会・懇親会・研究発表会)

連絡先：日本庭園学会関西支部事務局

ファクシミリ番号：075-791-9127

電子メール：naka@kuad.kyoto-art.ac.jp

## ■平成28年度 日本庭園学会関西大会 スケジュール

## 第1日目

<日時>平成28年11月5日(土)

<会場>旧三井家下鴨別邸、鹿苑寺、等持院

- 10:00 京阪出町柳駅改札出口(地下)集合
- 10:15 開会あいさつ  
徒歩にて移動
- 10:30～11:30 旧三井家下鴨別邸(京都市左京区下鴨宮河町58番地2)の見学  
案内:仲 隆裕氏(京都造形芸術大学教授)
- 11:30 午前の部終了、一時解散

移動、休憩、昼食(各自)

- 13:00 鹿苑寺(金閣寺)拝観受付にて再集合  
※市バス 糺の森から205で金閣寺道下車 徒歩5分  
庭園及び北山殿「四十五尺の滝」導水路推定地の見学  
案内:鈴木久男氏(京都産業大学教授)
- 14:45 徒歩にて移動
- 15:30 等持院着(京都市北区等持院北町63)  
京都市指定名勝等持院庭園の見学  
案内:今江秀史氏(京都市文化財保護課文化財保護技師)
- 17:00 現地にて解散  
※懇親会場までは北野白梅町から市バス205で河原町三条下車

- 18:00～20:30 懇親会  
会場:MODERN モダン 三条木屋町  
住所:京都府京都市中京区木屋町通三条上ル上大阪町516  
ジャンクションビル5F  
電話:050-5841-5191  
(京阪三条・地下鉄東西線京都市役所前駅 徒歩各3分、阪急河原町徒歩7分)



## 第2日目

<日時>平成28年11月6日(日)

<会場>京都産業大学むすびわざ館(京都市下京区中堂寺命婦町)

- 9 : 30 受付開始
- 10 : 00 ~ 15 : 25 研究発表会
- 15 : 25 閉会
- 15 : 25 ~ 16 : 30 理事会

## 研究発表会スケジュール

(10 : 05 ~ 10 : 35)

### 1. 江戸期に於ける日本人と象のふれ合いについて 杉尾伸太郎 (株式会社ブレック研究所)

動物園において、象は現代でも多くの人々の関心が寄せられる動物である。江戸期に輸入された象は、その都度大人気を博した。国内に棲息する陸生の動物全てと比較して圧倒的に大型で、形態が特異である存在感が人々の興味の対象となったのである。日本の庭園史の中で象が浜離宮に於いて永年飼育されていた事は特筆されようが、若冲を始め絵画の中で象が描かれる事も日本人と動物の関係性を明らかにするため重要である。筆者は江戸期に於ける輸入象と、その扱いを概観するとともに、木村兼葎堂が日誌の中で扱った象について、また若冲が描いた象の図について考察し、それらの事から浮かび上がる事実を考察した。即ち、どの文献にも触れられていない寛政5年にも象は輸入され人々に接し描かれたと思われる。

(10 : 35 ~ 11 : 05)

### 2. 庭園学を含む土地に関する諸科学の記述における根本問題

#### 今江秀史 (京都市文化財保護課・大阪大学人間科学研究科)

庭園学をはじめとする土地に関する諸科学では、同じ日常生活の時間経過の中で知見を得た土地を、それぞれの研究態度に応じて異なった世界あるいは空間として記述している。本論は、フランスの地理学者・オギュスタン・ベルクの風土の理論による、自然科学と社会科学における二元論の乗り越えの取り組みを媒介として、土地に関する諸科学の根本問題が主観的世界と空間、客観的世界と空間の記述の混同・混在にあることを解明する。

(11 : 05 ~ 11 : 35)

### 3. 高陽院の構成と意匠に関する一考察

#### 川口真実・仲隆裕 (京都造形芸術大学芸術学部)

高陽院は平安時代中期、藤原道長の長子藤原頼通が造営した邸宅のひとつである。本邸宅は寝殿の四周を池がとり囲んでいたとされ、『栄花物語』巻二十三「こまくらべの行幸」では「この世のことゝ見えず」と評されるほど特徴ある構成や意匠をもつものとして知られている。高陽院に関しては、戦前より太田静六らによる詳細な研究があり、復元図も提案されているが、その後に進展した財団法人京都市埋蔵文化財研究所による高陽院推定地での発掘調査成果を踏まえ、検討の余地がある。本研究では高陽院の構成と意匠に関して新たな復元案を示すことを目的として、「駒競行幸絵巻」静嘉堂本・久保家本・狩野養信模写本に描かれる場面に関して、発掘調査の成果と照合を行いつつ考察する。

(11 : 35 ~ 12 : 05)

### 4. 上洛後における夢窓疎石の禅宗庭園観とその文化的影響に関する基礎研究

#### 関西剛康 (南九州大学 環境園芸学部)

夢窓疎石(1275 - 1351)は、元弘3(1333)年に後醍醐天皇に招請され上洛し、その後に天龍寺創建、西芳寺中興を行った。これらの禅宗庭園において、天皇家らの舟遊び・管弦等の行為は、禅修行とは一線を画するものであった。そこで夢窓がこれらの使用を鑑み、如何に庭園使用等の整合性を図ったのかについて、夢窓晩年の著書『夢中間答』から類推し、あわせて夢窓没後の禅宗庭園等にどのような影響を与えたかについて考査した。

(休憩)

(13:25 ~ 13:55)

## 5. 『都林泉名勝図会』と京都の地誌（予報）

白木朝乃（京都造形芸術大学大学院芸術研究学科）

『都林泉名勝図会』は寛政11年（1799）に京都で刊行され、秋里籬島によって編集された、5巻6冊構成の京都の庭園と名勝を紹介した名所案内記である。前報では、『都林泉名勝図会』における挿図の表現の特徴について考察した。本研究では江戸期において庭園を名所としてとりあげた他の名所案内記（地誌）との比較を行い、『都林泉名勝図会』がその後の地誌における庭園に関する記述に与えた影響について検討・考察する。

(13:55 ~ 14:25)

## 6. 育徳園の池（現三郎池）の現状と課題2

原祐一（東京大学埋蔵文化財調査室）

関東大会では加賀藩の育徳園の概要、残っている遺跡、景観と水位を中心に育徳園の整備の問題点を指摘し、江戸時代の史跡、視点場、月景観について検討した。加賀藩の絵図は数多く残されており育徳園部分も多く描かれている。年代の明確な絵図の中から『江戸御上屋敷絵図』（1600、1840～45）と庭園図『育徳園』の分析を行う。また、分析結果から、現在の園路については江戸時代のものを踏襲しているのか、新たに整備されたものかを江戸時代の史料を検討した上で明治時代以降の絵図、東京大学の建築計画図面から検討を行う。

東京大学遺跡調査室（現、東京大学埋蔵文化財調査室）は1984年、山上会館建設予定地で庭園の東側を調査している。調査の結果、園路、「御亭」の基礎と推定される遺構を検出。庭園の変遷はⅢ期に区分されている。絵図、庭園図の分析を踏まえて山上会館地点の再評価を行う。

(14:25 ~ 14:55)

## 7. 日本庭園と西洋音楽形式の対比考察（含 実演）

森泰規（株式会社博報堂ブランド・イノベーションデザイン局）

優れた戦略は物語のように連鎖する、といわれる。これをより各種の「表現」「具体的イメージ」に近いブランディング（ブランドをつくる過程）に適用して検討する場合、物語といっても舞台芸術のように連鎖すると筆者は考える。そして日本庭園については、その真価をより多くの人々に啓発するためには、むしろ舞台芸術に近いものとも考えるほうが、効果が高いとの仮説を持つ。作品解析と演奏実演を交えて考察する。

(14:55 ~ 15:25)

## 8. 日本庭園の射程は？

森泰規（株式会社博報堂ブランド・イノベーションデザイン局）

社会学的考察の方法論をやや端的に言うと「共同性・階層性・システム性」の三つに集約される。また、そもそも社会学とは「時代の産物であり同時に、時代を考察する科学」として、その考察対象である近代の社会と共にフランス革命後に成立した。ひとが生きる社会はもともとあったが、学問としての体系やその対象は、後から生まれたのである。「日本庭園」も実態より後に「生まれた」のではないか。だとしたら、その射程をどのように捉えればよいのか。「共同性・階層性・システム性」の三つの視点によって検討する。

### 【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

### 【協力者】

齋藤 絢子、山本 千晶（植彌加藤造園株式会社）

### 日本庭園学会広報委員会

今江 秀史・加藤 友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342